

結実は）4本ともほんの少し。ミズナラなどのドングリの結実は好いようです（中田さん）。

兵庫県芳賀町氷ノ山では、1993年以来の大豊作でした。平均200~300粒/m²、多いところでは400粒/m²の落果量でした。そして、特記事項は、充実種子率が80%以上と高く、シイナ種子率、虫害種子率が10%程度であることです。氷ノ山において充実種子率が80%を越えるは、1993年と1988年以来のことです。2003年も豊作年でしたが、充実種子率は30~40%でした。この年はシイナ種子率が高い傾向でした（谷口さん）。

鳥取県南大山では無着花。鳥ヶ山ではDBH50cm以下では15本全部無着花、DBH60-100cmの老木は5本中2本が着果。並下作と思われる。

岡山県蒜山の50~120cmの（ブナの）母樹10本中7本着果、並上作で豊作に近い着果と思われる。今年は10kmぐらいしか離れていないブナ林で、林分によって、また、直径の大きさによって着果に著しい差が見られた。大山、蒜山地区では久しぶりの着果と思われますが、稔性はよくないと思います（橋詰さん）。

山口県周南市長野山の定点調査地に全く結実はありません。他の山でもブナを見る機会がありましたが、そこでも全く結実はありませんでした（眞崎さん）。

宮崎県高千穂町祖母山では台風14号の影響と思われますが、大木が数本倒れています。昨年に引き続き、今年も結実は確認できませんでした。

1993年~2005年の全国ブナ結実状況は佐藤のホームページ<http://www.nsknet.or.jp/tsato/>で公表しているので参考下さい。

引用文献

- 橋詰隼人. 1991. ブナ林の生理・生態pp. 55-56. in 「ブナ林の自然環境と保全」村井宏ら編. ソフトサイエンス社, 東京.
- 梶幹男・澤田晴雄・五十嵐勇治・蒲谷肇・仁多見俊夫. 2001. 秩父山地のイヌブナーブナ林における17年間のブナ類堅果落下状況. 東京大学農学部演習林報告106: 1-16.
- 菊池捷治郎. 1968. ブナ林の結実に関する天然更新論的研究. 山形大学紀要（農）5(3): 221-306.
- 前田禎三. 1988. ブナの更新特性と天然更新技術に関する研究. 宇都宮大学農学部学術報告輯, 46: 1-79.
- 長井真隆. 1998. 富山県における秋の有害鳥獣駆除によるツキノワグマの捕獲個体数とブナ・ミズナラの結実変動. 富山の生物, 37: 17-22.
- 斎藤正一. 1999. 山形県におけるニホンツキノワグマの生息数と狩猟圧. 東北森林科学会誌, 4(2): 19-23.
- 斎藤正一・岡輝樹. 2003. 山形県におけるニホンツキノワグマの有害駆除数変動に関する要因. 東北森林科学会誌, 8(2): 94-98.
- 佐藤卓. 2002. 2001年全国ブナ結実状況. 富山の生物, 41: 51-56.
- 谷口真吾・尾崎真也. 2003. 兵庫県氷ノ山山系におけるブナ・ミズナラの結実とツキノワグマの目撃頭数の関係. 森林立地, 45(1): 1-6.
- 野外教材研究委員会. 1991. 有峰のブナ林について. 生物部会報, 14: 15-31.
- 野外教材研究委員会. 1994. 1993年全国ブナ結実状況. 生物部会報, 17: 18-21.

朝日町で発見されたウミベワラジムシの1新種

布村 昇

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

Discovery of a new scyphacid isopod from Asahi, Toyama Prefecture

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, Nishinakano-machi, 1-8-31, Toyama-shi, Toyama, 939-8084, JAPAN

2003年の8月、富山県下新川郡朝日町元屋敷の砂利海岸で打ち上げ貝類の調査をしていた時、玉石からなる海岸の飛沫帶の深さ20cmくらいの場所から、湿り気がようやくあるような場所で薄橙色

ないしは肌色の3.0-6.5mmの細長いワラジムシが採集された。これはウミベワラジムシの仲間であると思ったが、各附属肢と口器を解剖し、スケッチして文献と比べて見るとやはりウミベワラジム

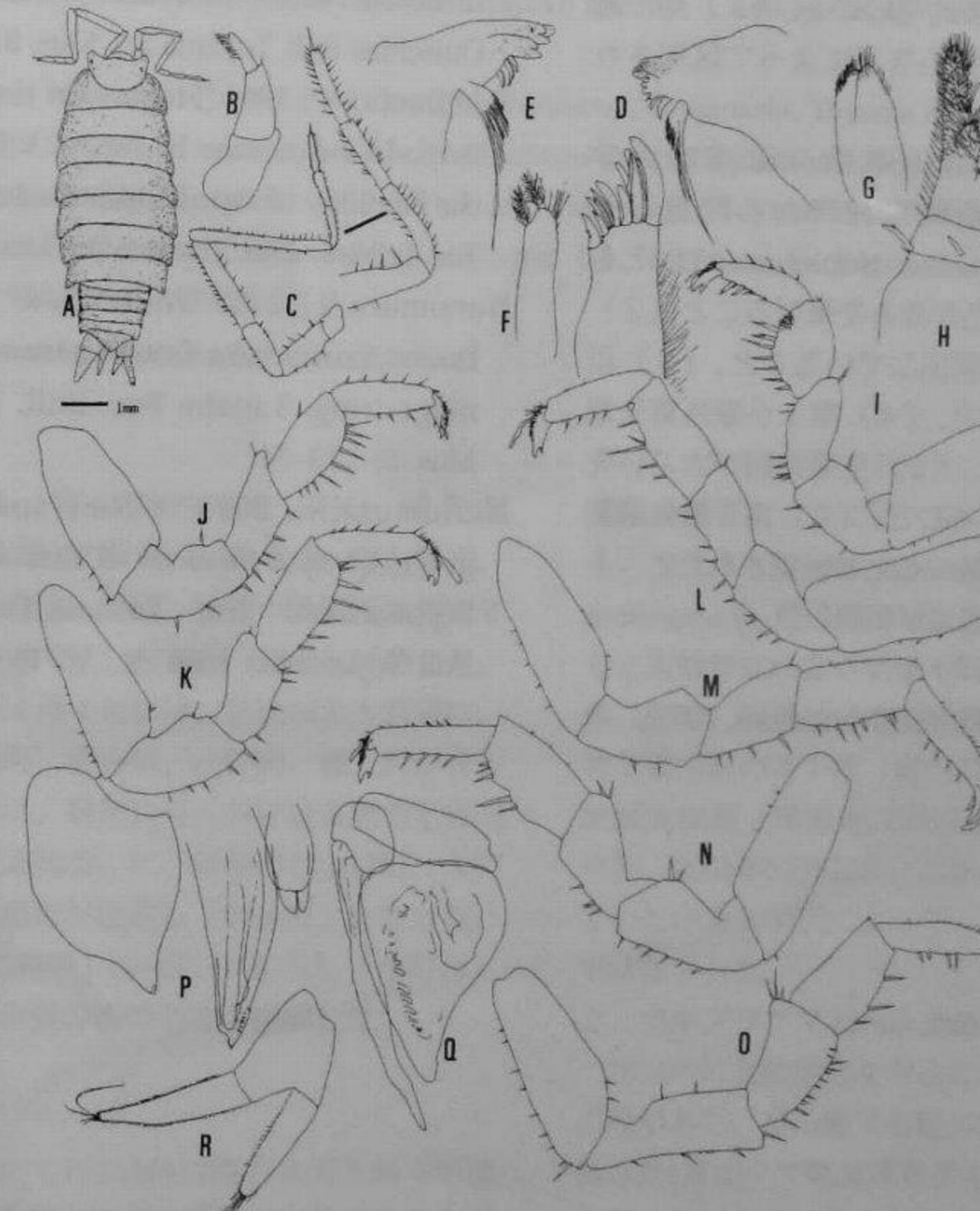


図 トヤマウミベワラジムシ *Quelpartoniscus toyamaensis* Nunomura, 2005
A: 背面観; B: 第一触角; C: 第二触角; D: 右大顎; E: 左大顎; F: 第一小顎; G: 第二小顎;
H: 頸足; I-O: 第一胸脚~第7脚; P: ♂生殖突起と第一腹肢; Q: 第二腹肢; R: 尾肢.

シ*Quelpartoniscus*属であった。*Quelpartoniscus*という名は韓国済州(チェジュ)島のこと、韓国の等脚類研究者の権道権博士(Kwon, 1995)の命名である。

この属ははじめ大阪湾のみさき公園の玉石から見つけたのが最初であった(Nunomura, 1986)がそれとは明らかに違っており、のちに長崎県対馬の飛沫帯から記録されている*Quelpartoniscus tsushimaensis* (Nunomura, 1990)ともっとも類似することが判明した。しかし、(1)体色が薄いこと、(2)目の個眼数が少ないと、(3)第1小顎外葉先端の歯の数が多いこと、(4)腹尾節後端の形がほぼ直角であること、(5)雄第1腹肢内肢が太く、先端に小歯を持つこと、(6)雄第2腹肢内肢が比較的短いこと、(7)第一触角最終節に多くの感覚毛などによって区別される。

本種はまた、和歌山県白浜町京都大学瀬戸実験所裏の番所崎飛沫帯から発見した*Quelpartoniscus setoensis* Nunomura, 2003とも似ているが、(1)体色が赤みを帯びること、(2)頭部の前縁の両端が突出していること、(3)目の個眼数が少ないと、(4)第1小顎外葉先端の歯の数が多いこと、(5)生殖突起が太く、先端が1部分岐していること、(6)第1触角最終節に多くの感覚毛を持つことで区別された。

結局、新種であることが判明し*Quelpartoniscus toyamaensis*(和名は「トヤマウミベワラジムシ」(新称)として記載した(Nunomura, 2005)。な

お、本種のホロタイプは富山市科学文化センター(TOYA Cr-13082)で保管される。

なお、昨年夏に一度現地を訪れ、かなり探したが、発見できなかった。潮間帯の生息場所は微妙であり、日々、刻々変化するので、絶滅したなどと早計に結論してはいけない。

参考文献

- Kwon D.H., 1995. Terrestrial Isopoda (Crustacea) from Cheju Island. Korea. Korean J. Zool. 11: 509-538.
- Nunomura, N., 1986. Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan.III. Taxonomy of the Families Scyphacidae(continued), Marinoniscidae, Halophilosciidae, Philosciidae and Oniscidae Bull. Toyama Sci. Mus. 9:1-72
- Nunomura, N., 1990. Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan. V.Taxonomy of the families of Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae. Bull. Toyama Sci. Mus. 13:1-58.
- Nunomura, N., 2003. Four New Terrestrial Isopod Crustaceans from Kashima Islet and its neigouring, Tanabe Bay. Bull. Toyama Sci. Mus. 26: 13-24
- Nunomura, N., 2005. A New species of the genus *Quelpartoniscus* (Crustacea: Isopoda: Scyphacidae) from Toyama, Central Japan) Bull. Toyama Sci. Mus. 28: 13-16.

富山県における哺乳類の記録 (2005年)

村井仁志¹⁾・南部久男²⁾・森 大輔¹⁾・内呂由美子¹⁾・西岡 満³⁾・間宮寿頼⁴⁾・細川美和子⁵⁾・見浦沙耶子¹⁾・岡 圭一⁴⁾・白石俊明¹⁾

- 1)富山市ファミリーパーク
2)富山市科学文化センター
3)西岡動物病院
4)富山県鳥獣保護センター
5)富山県動物生態研究会
- 〒930-0151富山県富山市古沢254
〒939-8084富山市西中野町1-8-31
〒933-0803富山県高岡市出来田262-3
〒939-2632富山県婦負郡婦中町吉住1-1

Records of mammals in Toyama Prefecture (2005)

Hitoshi MURAI¹⁾, Hisao NAMBU²⁾, Daisuke MORI¹⁾, Yumiko UCHIRO¹⁾, Mituru NISHIOKA³⁾, Kazuyori MAMIYA⁴⁾, Miwako HOSOKAWA⁵⁾, Sayako MIURA¹⁾, Keiichi OKA⁴⁾ and Toshiaki SHIRASHI¹⁾

- 1) Toyama Municipal Family Park Zoo 254, Furusawa, Toyamashi, Toyama PRE, 930-0151, JPAPN
2) Toyama Science Museum 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama, 939-8084, JAPAN
3) Nishioka Animal Hospital 262-3, Dekiden, Takaokashi, Toyama PRE, 933-0803, JAPAN
4) Toyama Prefectural Wildlife Protection Center 1-1, Yoshizumi, Fuchuumachi, Neigun, Toyama PRE, 939-2362, JAPAN
5) Toyamaken Doubutsu Seitai Kenkyukai

はじめに

筆者らは、富山県内を中心に、哺乳類の目撃記録等を報告してきた(村井他, 2003, 2004, 2005)。今回、2005年の記録を報告する。方法については、村井他(2005)に順じた。なお、2005年4月1日には、富山市と大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村が合併し「富山市」に、同年11月1日には高岡市と福岡町が合併し「高岡市」に、新湊市と小杉町、大門町、下村、大島町が合併し「射水市」となった。よって、「確認場所」の市町村名では、「市町村」の項目には合併後の市の名称を記載した。

結果及び考察

本調査において7目14科17種とネズミ科不明種の計69件の哺乳類に関する情報を収集することができた(表-1)。ニホンザルが14件と最も多く、次いでカモシカ12件、ツキノワグマ9件、ノウサ

ギ6件、タヌキ5件であった。これらの中から特筆すべき種等について述べる。

1. ヤマネ *Glirulus japonicus*

ヤマネは、富山県では記録の少ない哺乳類であり、有峰や立山など奥山で報告されている(富山県, 1978)。本種は日本固有種で、国指定天然記念物で富山県の希少種(富山県, 2002)、環境省の準絶滅危惧種(環境省, 2002)に指定されている。今回、2004年5月5日に、ニホンザルの調査を行っていた赤座久明氏によって、黒部ダム直下の雪中で確認された。

2. ツキノワグマ *Ursus thibetanus*

2004年に北陸地方を中心にツキノワグマの大量出没があり、富山県でも延べ1200件を越す出没があった(富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク(JBN), 2005)。2004年に報道された富山県のクマの記録は122件に上ったが(村井他, 2005), 2005年の報道機関による本種の記録は9件